

【学習のねらい】

二通りの3コマ漫画「あいさつ」で、子どもの気持ちを考え、話し合うことを通して、子どもたちに対して固定的な見方をしている大人に気づき、地域での子育てについて、自分に何ができるか考え合う。

【進め方】

- (1) 4～5人のグループを作る。
- (2) 話し合いの観点を示してから、グループ討議をしてもらう。

- 「今時の子はあいさつもできない」と言ってから、いつも出会う同じ子どもに対して、声をかけることができないでいるBの大人の気持ちはどうだろうか。
- 自分にもBの大人のような経験はないだろうか。
- A、Bそれぞれの子どもがどんな経験をし、どんな気持ちでこれから生活していくのだろうか。Aの子どもは声かけを続けていけば、どのように変わっていくか。
- 自分にも、この漫画に登場する大人や子どものような経験はないか、今後自分にできそうなことは何か。大人としての行動を考えてみたい。

- (3) グループごとにどんなことが話題になったかを発表し合い、まとめをする。

【留意点】

- (1) 話し合いの観点 [進め方の(2)] のそれぞれの項目に触れたグループ活動をするのもいいが、感じたことをお互いに出し合いながら、この観点を含めた話し合いになってもよい。
- (2) 継続していくことのよさに気づき合いたい。
- (3) 地域での子育てについて、今後自分にできそうなことを中心に、参加者からの意見でまとめ、行動につなげていきたい。

【発展として】

駅の階段やコンビニエンスストアの前に座っている子どもたちに、どんな声をかけるか考え合ってもよい。

「あいさつ」



それぞれの子どもの気持ちについて話し合ってみましょう。

Aの子どもの体験	Bの子どもの体験
<p>今後、自分にできそうなことは</p>	